

令和7年度「一市町村民会議一運動」活動紹介

岐阜市青少年育成市民会議

<青少年育成市民会議の役割>

- 市民の青少年健全育成に対する啓発と意識の高揚
- 地域社会における健全育成活動の実施と支援
- 地域活動の推進と広域活動の支援
- 行政との連携

1 現状

【課題】

- 少子化や役員の高齢化が顕著であり、後継者育成が難しい地域もある。
- 人と人とのつながりに喜びを感じつつも、自身の生活との両立に難しさを感じている。

【対応】

- ・共通の事業を隣接地域との協働で開催
- ・自治会連合会やまちづくり協議会との連携
- ・「青年ボランティア人材バンク **CONNECT**」等による人材育成
- ・事業や組織運営の創意工夫

人々のライフスタイルの変容と共に、子育てや人とのつながり方に関する意識の変化は顕著である。そうした中、人と人とのつながりをもとに、新しい価値観を取り入れながら持続可能な活動となるよう創意工夫し、将来の地域社会を担う青少年を育成していくことが重要だと考える。

2 「青少年とのつながり」を大切にしたい取組<第5ブロック>

(1) 中学生と地域の大人がともに創り上げる大会ディベート大会2025

第5ブロックでは、16年間続く「ディベート大会」を開催している。当初は中学生のみの大会として始まったが、今では、地元の中学生と役員が一緒になって取り組む大会となっている。ディベート甲子園の論題を採用し、第5ブロック特別ルールで本格的なディベート大会としている。

ディベート大会までに「学習会」を中学生と地域の市民会議役員で行っている。従来、大人は当日の中学生のサポートに徹していたが、共に考え発言するワンチームで「つながり」を強く意識できる大会となるよう工夫している。大人・子ども関係なく、互いに意見を出し合い、中学生と大人が熱く協議する姿も見られ、一緒になってひとつの大会を創り上げようとする姿が見られた。

このように、取組段階から大人が中学生と同等の立ち位置に立って、考え、接しようとする姿から中学生も信頼を寄せ、地域に自身の居場所を実感することができていた。当日の大会では、中学生だけでなく、大人も同様に意見を主張する姿もあり、温かな雰囲気と緊張感のある子どもと大人が共に創り上げることを大切にすることで、青少年と地域のつながりを深め、それが役員の充実感(喜び)へとつながっている。



【参加者の声】

- ・地域の方々がたくさん関わることができて楽しかった。ディベートを終えた後、いっぱい褒めてもらえたと、仲間や地域の方々と協力して取り組んで、とてもいい経験になった。
- ・学習会から子ども達と話し合いを重ねて取り組んだ。難しさもあり大変だったが、地域対抗ということもあり、一体感をより強く感じた。

(2) 青少年を取り込んだ専門部会の取組

各地域では、従来から青少年の地域活動への参加を促している。青少年が「できる時に」「できること（興味関心）」を念頭に、地域活動への参加を促す取り組みを工夫している。

【家庭部会】 土曜日に開催した子育て講座では、幼児教育に興味関心がある中学生が自主的にボランティアとして参加した。受付で参加者に絵本を渡したり、乳幼児とふれあったりする姿は、実に生き生きとしていた。地域でのキャリア教育の一環としての意味合いも感じた。

【青少年育成部会】 小学校や子ども会と連携して、「ラジオ体操講座」を開催した。夏休みのラジオ体操が縮小傾向にある中、ラジオ体操の正しい動きを学ぶ機会とすることや夏休みの活動への参加意欲を高められるよう取り組んでいる。ブロック内8地域で延べ500名あまりの参加があり、夏休みの生活につなげることができた。

【社会環境部会】 街頭啓発活動を地域の中・高校生参加も仰ぎながら、参加を呼びかけて行っている。本年度は、**CONNECT** から情報を得て、中高生数名が、「是非、参加したい。」と活動に参加した。少しずつではあるが、「できる時に、できることをやってみよう」という意識で、地域活動にかかわってくれる青少年が増えてきていることに、将来への期待感が高まった。今後も情報発信を大切にして活動を広げていけるよう努めていきたい。



【子育て講座ボランティア】



【街頭啓発活動】



【ラジオ体操講座】

3 終わりに

青少年の健全育成にあたって、子どもや若者にとって、地域が安心安全な心の居場所の一つになることを期待して活動をしている。そうした中で、10年後、20年後の地域社会をリードしてくれたり、積極的に参加してくれるようにもらいたい青年層（高校生以上）や子育て中の若者にとって、昨年度スタートした**CONNECT**の登録者は、25人増えて55人となった。その中で、長良川清掃や赤い羽根募金啓発運動、プロキング活動、街頭啓発活動などに参加している高校2年生の男子生徒に意識調査を試みたところ、次のような回答があった。（回答の一部を掲載）

Q：登録理由は何ですか。

A：私は重度難聴のため校区外の難聴学級のある小中学校に通っていましたが、そのため居住地域での関わりが一切ありません。私が中学校に在学していた時に学校内でこのボランティア人材バンクについて知り、難聴である私がコミュニケーションを学ぶための場となり、また誰かの支援につながればと思い登録しました。

Q：登録して今どう思っていますか。

A：活動には満足しています。各ブロックのボランティアの内容は、地域によって活動内容が様々あることを知り、興味のある活動があれば居住地域外のボランティアにも参加できるからです。

まだまだ道半ばであり、課題も多い現状ではある。しかし、こうした思いで参加してくれる子どもや若者がいることを念頭において、地道に今後も活動を工夫していきたい。